

龍山道人曰。筆墨清秀。情味雋永。

次韻竹陰君述客中懷

龍

淵

帳夕還卿夕。容裡送秋情。植杖龍田岳。回頭舞鶴城。冷霜鐘切苦。深夜月空清。堪羨天邊雁。翱翔兩翼輕。

疊韻

客窓多暗淚。遊子易傷情。風落龍田樹。月明銀杏城。哀猿牽夢砌。寒杵攪憂清。却望西天上。白雲飛且輕。

述懷

習學寮頭望故鄉。凝煙一片碧空長。音書不到秋還盡。暮雁鳴愁入渺茫。

第十三回紀念式賀詞

惠利武

阿嶽秀靈此一鄉。堂滿依依舊氣皆剛。同逢盛典歡何限。我亦臨風裁賀章。

足立靖一

黃菊開時臨今辰。學堂名震十三春。龍山之麓多俊才。不說當年落帽人。

甲斐重五

此開覽舍十三年。海內龍南名早傳。又遇佳辰誰不賀。高吟我亦有詩篇。

文科大學生

平野

乍

雲幾重とほきあつまの空にして今日の祝を思ひこそやれ

生田 鹿之丞

まなひやのもとたつ田なる松かせは千代にかはらぬひよきなりけり

濱田 八之助

龍田山松の齡にたくへつゝ文の林のとはにさかゑむ

太田 照作次郎

仰き見る秋のみ空の高きかな文の子集ふことほきの庭

松本 茂平

まなびやのその名も高く龍田山文のはやしの日々に榮むて

城 慈雲

ゆるきなき千代の榮むは學ひやのまかきの松の色とこたへよ

堀 部 廣

しらかはとともになかるらむわかまなひやの清きほまれは

工藤 忠輔

雲井に高く名をあげむ、鶴の生ふ巢と學ひやの、

常盤の松の色とも、榮ゆる代こそ樂しけれ。